

志田周子医師の年譜

年号 月日 年齢 記事

年号	月日	年齢	記事
明治43年	10・28	3	西村山郡左沢町に生まれる
大正3年	3・31	3	父莊次郎氏が大井沢小学校長に榮進し、大井沢に移住
大正6年	4・	6	大井沢尋常小学校入学
大正12年	3・	12	大井沢尋常小学校卒業
大正13年	4・	13	山形第一女学校入学
昭和3年	3・	17	山形第一女学校卒業
昭和3年	4・	18	東京女子医学専門学校入学
昭和8年	3・22	22	東京女子医学専門学校卒業
昭和8年	4・6	22	医師免許証取得、付属病院医局勤務
昭和10年	7・1	24	大井沢診療所医、村医、学校医となる (土蔵に仮設の診療所を設ける)
昭和11年	1・5	25	新診療所での診察が始まる
昭和13年	2・8	27	母せい(明治24年3月1日生)死去
昭和14年	4・1	28	大井沢婦人会長に就任(爾来20年間)
昭和17年	9・27	31	西村山郡医師会(県医師会西村山支部)より表彰
昭和17年	12・10	32	山形県医師会より表彰
昭和20年	3・21	34	弟惣次郎戦死(一年後に公報入る)
昭和21年	4・1	35	郡連合青年団参与
昭和21年	11・1	36	県民生委員就任
昭和22年	4・30	36	大井沢村議会議員当選
昭和23年	9・1	37	大井沢村国保運営協議会委員となる
昭和25年	2・10	39	父莊次郎死去

(次ページに続く)



大井沢診療所で保健文化賞を手にする志田周子医師(昭和34年9月)

志田周子生誕100周年

大井沢に捧げた生涯 女医 志田周子が残したものの

無医村だった大井沢に
医師として戻った一人の女性

町民の皆さんに知ってほしい
村民の生活を守るため
人生の全てをかけた女性がいたことを



往診先で

Chapter 1

地域医療に捧げた生涯とは

当時、陸の孤島と呼ばれた大井沢村。「三年だけでいいから大井沢に帰ってくれ」。そんな父の願いを受け入れて、無医村だった大井沢村の医療のために、東京から帰ってきた志田周子女医。村医として、村民千五百人余りを診療する日々が始まりました。

明治四十三年、小学校の教師をしていた父莊次郎と母せいの長女として、左沢町(現大江町)で生まれた周子でしたが、周子が三歳のとき、父の転勤とともに大井沢へ移住。大井沢小学校長などを務めた父莊次郎は、その後大井沢村長などの要職も歴任し、村のために尽力されました。そうした中で特に、医者がないという状況で何とかしたいという思いから、父莊次郎が考えたのが、長女周子を医者にしようというものでした。幼いころから聡明で、活発だったという周子。父の期待を一身に受けながら、山形第一女子高等学校(現山形西高)に進むと、優秀な成績で卒業し、

父莊次郎の意向を汲んで、東京女子医学専門学校(現東京女子医大)に進学。東京での学生生活を楽しんだという周子のエピソードには、銀座での買い物や学友たちとの交遊など青春を謳歌する女性の姿が感じられるものが多く残っています。

昭和八年四月、見事医師免許を取得した周子は、そのまま付属病院に勤務し、東京での生活を続けました。そんな中、勤務先を訪ねてきた父からのひと言が、周子の生涯を決めるものとなりました。「三年間だけ」という父の願いを受け、都会の暮らしに未練を残しながらも、大井沢村に帰ることになった周子医師。その間、父莊次郎は村長として県に診療所の建設を依頼し、整備を進めていました。当時二十四歳だった周子医師は、その診療所を拠点に、村医、また小学校医として地域の医療に邁進。しかし、医局勤務二年ほどの経験しかなかった周子医師は、その重責



の中で苦悩も少しばかりではなかったようです。「ヤブ医者」。検査する機器もそろっていなかった診療所では、診察にも限界があったため、都市部の大きな病院での検査を勧めると、「医者なのにわからないのか」と罵声を受けることもあったと言います。しかし、村民のためにと、診療所に寝泊まりしながら、二十四時間体制で診療を務めた周子医師の姿に、少しずつ村民との距離も近づいていきました。

そんな中、母せいが病死。医者として母を救えなかった現実が直面。さらに跡継ぎだった弟惣次郎が戦死し、「三年間だけ」の約束だった周子医師は、この時大井沢に残ることを決断しました。「何にましても一番苦労しますのは、冬の仕事でございまして。私の所は非常に雪が深いものですから五十センチぐらい積りますのはザラでございまして、時によりまして一昼夜に一メートルぐらい

志田周子医師の年譜（続き）

年号	月	日	年齢	記事
昭和26年	4	23	40	大井沢村議会議員に再選
昭和29年	9	・	43	大井沢中学校教諭室岡夫妻長女由里を生後2カ月より昼間預り愛育する
昭和29年	10	1	43	町村合併により西川町議会議員となる
昭和30年	6	10	44	町国保運営協議会委員、町民生委員推選委員、町社会教育委員に任命される
昭和31年	6	・	45	NHK宮田輝訪問「僻地に生きて二十年―ある女医の一生―」放送
昭和31年	10	27	45	県学校保健連合会より表彰される
昭和31年	11	3	46	県教育委員会より表彰される
昭和31年	11	3	46	県知事より表彰される
昭和32年	3	16	46	県社会保険協会より感謝状を受ける
昭和32年	3	21	46	NHKラジオ特別番組「僻地に生きる」を放送
昭和32年	4	25	46	県医師会より表彰される
昭和32年	8	23	46	県公衆衛生大会において表彰される
昭和33年	7	18	47	村山地方町村議会議長会より表彰
昭和34年	9	15	48	第十一回保健文化賞受賞
昭和35年	4	・	49	室岡先生の転任に伴い、由里が山形へ県入権擁護委員に任命される
昭和36年	10	1	50	がんを患い県立山形病院内科に入院
昭和37年	5	11	51	東北大学医学部付属病院に一時移る
昭和37年	5	23	51	山形病院から桂外科に転院
昭和37年	7	18	51	午後五時四十分永眠

積もることもございます。そんなときの往診には二人か三人で迎えにまいります。でもあの「かんじき」をはいて行くことができませんでしたので、苦労してスキーを習ったりもいたしました。――「周子の生涯」鈴木久夫著。これは、昭和三十四年、上市市で開かれた第二回社会医療東北学会での講演「僻地診療への随想」で周子医師が話したものです。冬期間の診療がいかにも大変だったかがわかる内容です。

一方、歌人としての一面もあつた周子医師。アララギ派、結城哀草果に師事し、大井沢での暮らしの中での心境などを短歌に残しています。

――「西山にオリオン星座かゝるをみて患者に急ぐ雪路をふみて」（大井沢小中学校前建立歌碑より）――

こうした周子医師の活動を、新聞社やテレビ局がこぞ取り上げ、昭和十七年八月十八日刊の朝日新聞東京版では「仙境に咲く女医さん」、昭和三十二年にはNHKラジオドラマ「僻地に生きる」などが放送されると、多くの励ましの手紙や葉書が全国各地から周子医師の元へ寄せられる

ようになったと言います。昭和三十四年、辺地医療に献身的に取り組んできた周子医師に、東北で初となる「保健文化賞」が贈られました。そうした快挙にも、当時のインタビューで周子医師は「私に果たして受賞に値する業績があつたのだろうか」と答えており、周子医師の謙虚さが伝わってきます。

村民の健康と生活の向上を願ひ、何よりも村民、患者のことを優先した生活を送つていた周子医師の体に、突然襲

Chapter 2 大井沢の人々とのつながり

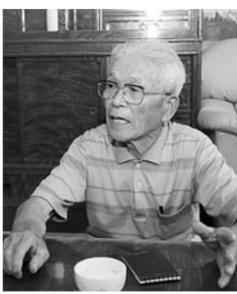
――大井沢の医療を支えた志田周子医師がどんな方だったのか。大井沢の住民との関わりはどうだったのか。

志田周子医師が大井沢村に帰ってきた当時の様子について、志田峰雄（みねお）さんと志田賢（まさる）さんにお話を伺いました。

赴任して何年かしてから自転車で行診するようになった周子医師。「何回も転んだりしながら練習していたようだった。亡くなる二年くらい前



志田峰雄さん



志田賢さん

には『バイクに乗ろうかな』と言っていた」と、賢さんは当時を振り返りながら話して下さいました。



自転車で往診に向かう周子医師

「今度は安心して死ぬる」。峰雄さんは、祖母のそんな言葉が耳に残っていると言います。十一月から五月までの半年は、雪が道を塞ぎ、陸の孤島と呼ばれる状況だったため、火葬するために必要な死亡診断書をもらうにも、町場の医者まで遺体を運ぶこともあつたという当時、医者が赴任したことによって、そうした不安がひとつ消えたことを意味しています。

「大井沢という特殊なこの地で尽くしてくれた」「偉大な人だった」と、二人は口をそろえます。

学校医、村医として献身的に取り組んだ周子医師。その姿は、今もなお大井沢の方々の心に残っています。

Chapter 3

志田周子の生涯を映像化

今年六月、やまがたの宝「志田周子」資源活用化実行委員会が設立されました。

これは、志田周子が残した功績や地域医療に捧げた生涯を地域の宝として、地域振興や県土発展に活用していこうというもので、委員長には大井沢区長の志田義郎さんが選任され、県、町、地元の大井沢や関係機関の方々などで委員会が構成されています。

委員会の最終的な目標としては、今後五年以内にドラマや映画といった映像化を掲げており、今年度は生誕百周年記念として、啓発事業を主に

行っていくことにしています。委員の方々からは、「志田周子を知る方々から話を聞き、積み上げていくことが大事である」、「もっと地元の方や、県民の皆さんに知ってもらふことが必要ではないか」などの意見が交わされました。

その他、山形市在住の作詞・作曲家の佐藤敏治さんが、志田周子医師をイメージした曲を制作。さらに山形市出身の歌手、葵ひろ子さんに歌っていたいただき、CD化に向けて現在制作が進んでいます。

今回、作詞された佐藤さんは、「志田周子医師の生涯に

やまがたの宝 志田周子生誕100周年 記念講演&コンサート

志田周子女医の生誕100周年を記念して、直木賞作家高橋義夫氏の講演と、アメリカを中心に活動されているシンガーソングライターの岩瀬明美氏のコンサートが催されます。

町民の皆様も、ぜひこの機会に志田周子というすばらしい女性が西川町大井沢にいたということを知っていただきたいと思ひます。

▼記念講演&コンサート

・期日：10月16日（土）
午後1時～
・会場：交流センター大ホール
・入場料：1,000円（全席自由）
※チケット300枚限定

▼第一部 午後1時～2時半
志田周子生誕100周年記念講演
演題「よみがえる周子」
講師 小説家 高橋義夫氏

▼第二部 午後2時45分～午後4時15分
記念コンサート
「周子に月と謳う」
出演：岩瀬明美氏
ジェームズ・ホスキンス氏
作曲：志田周子女医に心ひかれ周子のために作詞・作曲した「月の山」のほか、10数曲を演奏予定。

▼チケットのお求めは
交流センター
（☎74-3131）
又は、
町総務企画課
（☎74-2112）
までお問い合わせ下さい。